

第11回 1/144可変スーパーバルキリー(アマチュアディーラー)の巻



前回の更新から1年以上経過してしまいました(平伏)。このキットの入った段ボールが見当たらなかったもので(ガンプラの段ボールの背後に潜っていました)。さて今回はVF-1バルキリーの可変モデルです。F14トムキャット(風)戦闘機がロボットに三段変形する事で一世を風靡したこと、各社から1/72~1/200のプラキットが発売されていたことは以前書きましたが、**バルキリーの最大の特徴が変形にある**というのは疑いのないところでしょう。立体でもそれを再現したいと思うのは至極当然のことでありまして、1/72はイマイから、1/100はアライからプラキットが発売されました(現在では金型はバンダイに移っています)。それらは当時としては良く出来ていましたが、変形の一部は差し替えとなっていました。換言するなら、**模型レベルで完全変形するVF-1バルキリーは80年代アニメカモデラーにとっての“決着”アイテムのひとつとなったのです**。私も何回挫折したことか(汗)

可変に限らず、**模型の可動部分には「最適なサイズ」というものがあります**。サイズが小さ過ぎれば可動部分を構成することができず、逆に大き過ぎれば部品の保持が困難になるからです。最近やまとから発売された可変トイから判断すると、VF-1バルキリーではそのサイズは1/72より大きい1/60程度ではないかと推察されます。しかし今回の可変バルキリーは何と1/144!! ディラー氏(ネット上でのお知り合いです)はどのようにしてこのサイズにギミックを仕込んでいるのか、興味深々で購入しました。箱にはA型のスーパーバルキリーとありますが、**J型とS型の頭部が付属し、またノーマルのバルキリーにすることも可能です**(二連ビームキャノンのパーツも入っていたのですが何故だろう? ディラー氏のプレゼントだったかも)。組立説明書はディーラー氏のサイトからダウンロードしました。

その答えは**特殊な素材を多用したダウン**



キットデータ

メーカー	アマチュア
スケール	1/144
材質	レジンキャスト
当時価格	9000円(税抜)

サイジングにありました。キャンピーとキャンピーカバーはバキュームフォームで厚さをぎりぎりまで削ぎ、キャンピーカバー固定には糸を使用。部品の固定には極小ネジを、またヒンジの軸には極細の金属線を使用し薄いパーツはレジン注型時に金属線をインサート...恐らくとんでもない手間が掛かっているこのキット、イベント1回での生産数も大変少なかったと聞いています。しかもこれだけの無茶をしながら、かつてのイマイ1/144バルキリーへの敬意をそのプロポーションやディテールに盛り込むことも忘れられていません。VF-1バルキリーとはかくも熱くチャレンジングなアイテムなのです。そのことはウチのVF-1バルキリーの在庫数が物語っています...多分もう一話できそうです、ネタが無くなったら(笑)